区分・種別	重要文化財（建造物）		
名　　称	道後温泉本館（どうごおんせんほんかん）　附　棟札1枚　祈祷札1枚　事務棟1棟　石柵2基		
所　在　地	松山市道後湯之町五番六号		
所　有　者	松山市	管理団体	
指定年月日	平成6年12月27日		
解説	道後温泉本館は、北に神（かみ）の湯本館、東に又新殿（ゆうしんでん）・霊（たま）の湯棟、南に南棟、西に玄関棟が互いに接続して建つ複雑な構成をもつ。神の湯本館が明治27（1894）年、又新殿・霊の湯棟が明治32（1899）年、南棟及び玄関棟が大正13（1924）年の建築で、現在の姿は明治中期から昭和初年にかけて整えられたものである。 神の湯本館は木造三階建で入母屋造（いりもやづくり）の大屋根に宝形造（ほうぎょうづくり）の塔屋を設ける。又新殿は、銅板及び檜皮葺（ひわだぶき）の木造二階建一部三階建で正面に御成門を配し、皇族の入浴に備えて建てたられたもので、浴槽を含めて当初の姿をよく保持している。神の湯本館及び又新殿・霊の湯棟は、ともに棟梁坂本又八郎が手がけた。 道後温泉本館は、複雑な屋根をもつ外観に特徴がある。その姿は、古くから人々に親しまれた温泉湯の明治以降の繁栄の様子をよく示しており貴重である。		